



新 牛久ごみ ニュース

「ごみのちよつとしたお話②」

今回のごみニュースは「ごみのちよつとしたお話②」です。

で購入していませんでしたか。今日のようなトレイなど多種多様な容器包装類はなく、新聞紙などで包装されていました。

新牛久ごみニュースを連載して間もなく3年になります。市民の皆様と一緒にごみを減らしたいと呼び掛けて3年になるうとしています。ごみニュースの中で調査分析の結果などを基に約7千トンのごみが削減可能とお伝えしてきましたが、まだその効果が見られません。私たちが便利な生活を追及して行く中で、「物を大切にする日本人の心」がいつしか忘れられてしまっているのかもしれない。

☆ちよつと昔は…

子どものころどのような生活をしていたのかをちよつと振り返ってみてください。

肉は肉屋さんで必要な分だけを買っていませんでしたか。魚や豆腐などは車で売りに来る行商もいて、台所から皿や器を持って庭先

また、日本酒やビールの容器は瓶がほとんどで、購入して飲み終わればお店に戻し保証金が返金（デポジット方式）され、それが子どもの小遣いとなっていました。

しかし、今では紙パックやアルミ缶が重宝され、瓶類は少なくなり、市内の酒屋さんによると一般家庭への配達もほとんどなくなりました。そうです。



☆瓶ビールは家計に年間約3万6千円も優しい

環境先進国であるドイツでは、

ビールは「デポジット方式」によるリターナブル瓶（洗って繰り返し使える瓶）が主流ですが、日本では家庭で飲むビールといえば、缶ビ

ルが瓶ビールを押しつけて定着しています。

そこで、



缶ビールと瓶ビールによる家庭での負担額を比較してみます。比較は缶ビール（350ml）2本、それに相当する瓶ビール（633ml）1本を、それぞれ1年間飲んだとします。缶ビールの年間負担額は14万4540円、一方、瓶ビールは購入金額のほかにケースや瓶を返却することにより保証金が戻るため、年間負担額は10万7725円となります。瓶ビールは、缶ビールに比べ年間で3万6815円も安く、家計に優しいといえます。さらに、リターナブル瓶はアルミ缶の10分の1のコストといわれ、環境の面でも地球に優しいといえます。

私たちの生活の中から「家計」や「環境」にも優しいものを見直し、切り替えていきませんか。

～1年分を比べてみました！ どちらがお得？～

缶ビールの容量：350ml 198円 / 本(税込み)
1日2本ずつ消費したと仮定すると… 【年間負担額】365日×2本×198円＝144,540円 ※飲んだ後の空き缶は皆さんの税金で処理されています。

瓶ビールの容量：633ml 310円 / 本(税込み)
1日1本ずつ消費したと仮定すると… 【購入額】365日×1本×310円＝113,150円 【年間返金額】5,425円(ビン：1,825円、ケース：3,600円) 【年間負担額】113,150円－5,425円＝107,725円 ※リターナブル瓶を使用するための処理費用は企業が負担しています！

年間で 36,815 円もお得！